
essais ころみ 2023年4月

2023年4月3日（月） 曇→晴

今朝は雲が多い、これから晴れてきそう。桜もそろそろ葉桜、銀杏の新緑が目につきだした、なんとも初々しい。新年度スタート。

－ B-1 混沌と学習 －

【B.1995から1998年】この3年は『青天の霹靂』、愕然とするほど、自他ともに覚った一番最初、自業史上最大の混沌と学習の3年だった。

だからすでに冊子やリーズレターに書いてまとめてきたし、「ひと言ひとり言」の第2クールで話してもきた。事務所開設早々に前回書いた「セレンディピティー」どおりになったのだった。

知識として知っているけど、心身でわかる、実感する。事務所開設時の「広告事件」で、「行動しなければ何も始まらない」ということを身をもってさとした。

行動するにしても、真に自分の想うところを行動しなければ、ハードルを乗り越え難いし、潜在的な能力も引き出されない。そういう答えにいき

1年半がすぎた頃には、「自分の理解者は近くにいるとは限らない」とわかった。旧知の人を介して出会った、まったくこれまで接点のなかった世界の人に考えが通じたのだった。

結果的にこの3年間は、自分を問い直し、社会を観なおす機会になった。その分、今から思えば、よく勉強した。当時のシステム手帳をみると、われながら感心する。

やはり少々混沌とした方が精神に緊張感がでて、吸収力も高まる。当時の〈独学〉は今も大事な糧になっている。

2023年4月5日（水）清明 曇→雨

今日は曇りから雨の予報。明日にかけて雨のようで、乾燥がやわらぐ。今日は「清明」、明日は満月。

－ B-2 コミュニケーション① －

診断士の2次試験に合格したのは事務所をもった1995年の秋だった。年明けに3次の実習試験があり、無事登録となった。

事務所をもつと決めた時に既存の仕事契約は絶っていたから、まだまだ開店休業状態だった。2週間の実習試験でグループになった人たちに事務所を開放して、各自作業し、企業での報告会にのぞんだ。

指導教官の先輩診断士を先頭に、メンバー5名（だったか）が連れ立って実習試験に協力した企業へ向かった。会議室で企業のトップの前に各自、財務や労務など担当別に報告していった。

皆それぞれの分担部分の報告書は出来上がっていた。それなのに、社長への報告の様子はピンとこなかった。時間をかけて分析し、提案内容も練りあげていたのに。

そばで聞いていても、響かない。報告書の担当部分をただ棒読みしている感じ。顔は下を向いたまま、聞いている社長も報告書に目を落とすことになる。皆がそうなる。

一番端に座っていたので、その様子がよく見えた。順に報告していくが、同じような感じだった。なぜそんな風になるのかなあと思った。順番がまわってきて、自分なりに報告した。

報告会のふりかえりがあった。指導教官が評価や感想のコメントを述べる。意外そうな顔をこちらに向けて、報告のし方がよかったと褒めた。

褒められるほどのことではないのだけど、のちに「コミュニケーション」について覚る一番初めのトピックだった。単なる会話というだけでない広い意味での「コミュニケーション」について。

2023年4月7日(金) 雨

雨がつづく。朝の段階ではちょっとむしっとするけど、夜にかけてひんやりしてくる予報。「桜の通り抜け」は今日からしい。初日はちょっと残念な天気だけど、明日は晴天予報、雨上がりに桜もよく映えるはず。

－ B-2 コミュニケーション② －

事務所をもって、いろいろな人が訪ねてきた。耳馴染の無い業の名前で女性が一人、そこそこ広い事務所を開いたというのが関心をひいたの

友人や知人が自分の友人知人を、その彼・彼女らがまた誰かに教えて、やってきた人もいる。なぜ教えたのか。まずやって来た友人知人のまた友人知人たちが、〈話せる〉人・ところと思ったからだ、たぶん。

実際の場面は「ひと言ひとり言」の第2クールでいくつか話したから、よしとして、1995年からの3年はそれまでの社会観、人間観、そして自分観を変える第一段の学習期間となった。

ここで3つだけ印象的な場面を。ともあれ、この頃に『類は友を呼ぶ』とはよく言ったものだと思った。

リーズサロンでの一コマ。わたし「哲学って、日常の中にあるんじゃない？ 日常が哲学でしょ…」真向いにすわっていた知り合ってもまない男性「そんな風に考える人なんて、ほとんどいませんよ」。

友人がつれてきた男性と3人で談笑中の一コマ。わたし「なぜもっと自分の考えを話さないのかな、みな」。男性「僕が思うのは、そもそも自分の考えがないんじゃないかと…」。

リーズサロンに友人がつれてきた男性が後日一人で訪ねてきての一コマ。わたし「これからのビジネスの世界って、天体のような…」と話したことに、男性「えっ、そう、あなたもそう思う？、そうそう!」。

2023年4月10日(月) 晴れ

昨日から晴天、「通り抜け」はさぞかし賑わったこと。そろそろツツジも咲き出した。

－ B-2 コミュニケーション③ －

〈さとり歴〉をまだそんなに書いていないけど、過去にさとったことが今に続き、刷新してきているので、パターン化して書くのはこの「コミュニケーション」でやめにしよう。

診断士の受験勉強の時に「組織の3要素」を知って、すごく合点がいった。共通目的、協働意欲、そしてコミュニケーション。コミュニケーションがなければ前の2つは機能しないし、前の2つが機能しなくなってもコミュニケーションで喚起させることができる。

『商品知識』の参考図書に推奨された本では、商品も一つの〈記号〉という考えにふれた。記号論とコミュニケーション論に関するもので、すごく面白く読んだ。診断士受験のように何か一つ体系的な勉強が必要な場合に汎用的なこと、原理原則的なことを学ぶもの。

同じようなことをやっても、それなりにうまくいく人と何かしらうまくいかない人の差は、結局のところコミュニケーションの問題ではないかと思うようになった、いつの頃からか。その手前に情報経路の五感と認知の問題があるのだけど。

察知、感知のセンサーが働いて、そのことに応じた行動を何かする、あるいは対外的にアプローチする、それが適切なコミュニケーションアプローチとなって、事を円滑に進めることになったり、場合によってはトラブルを未然に防いだり。

『偶然と運の科学』という本に、運がいいと自分で思っている人の傾向をいくつか挙げている。一つ実験をしていて、運がいいと思っていると、運がないと思っている人、別々にカフェで待ち合わせ、カフェの前に5ポンド紙幣を落としておく。

結果。運がいいと思っている人は落ちている5ポンドに気づき、それを手に満面の笑みでカフェに入ってきた。一方、運がないと思っている人は5ポンドに気づかなず、なんでカフェに呼び出したんだという感じが入ってきたとか。なんだか、物語っている。

それはさておき、仕事に限らず、社会生活をする上で、コミュニケーションについて多面的に学ぶことはすごく有益だと思う。AIも実用段階に入るから、諸々に翻弄されず、自分自身を守るためにも。

2023年4月12日(水) 曇→雨→晴

予報によると今日から黄砂がやってくるらしい。外を歩くときにはしばらくまだマスクがはずせない。日傘も雨傘もしっかりさした方がいい。気をつけよう。

－ 今の三つ －

この間10回書いたさとり歴を含めて、今の段階で究極の3つを挙げるとしたら、何になるかしら。

一つはやはり、自分自身についてのさとりだと思う。秀才ではないけど、地頭はいい方で、聖人ではないけど、悪人ではなく、真に想うところを進む。これらはたぶん、今後も変わらない。

一つ目が自分なら、二つ目は他者との関係性ということになるか。となると、『類は友を呼ぶ』は正しい。これは今から20年ほど前にしみじみそう感じた。

独立から12年、事務所をもってから7,8年になっているから、経験と結果をいろいろを検証できて、自分なりの答えも得られる。

不思議に思える人との出会いも、互いの生活スタイルの実際の動きが指数関数的に作用していった一つの到達点だと思うようになった。

三つ目はなら、自分と他者とが生きる社会、世界についてということになるか。それなら、人間は変わらず、よくもわるくも変る。自分が目の当たりにしていることと、書物などで先達の知にふれて、腑に落ちた。

ところで、今は上の三つを挙げているけど、何年かすると三つの中身が変わる可能性がある。自分で自分に驚くような、新しい認識または感覚をおぼえることがまだまだあり得る。

だから、“年を重ねるって、ほんとうに面白い!”と感じるわけ。

2023年4月17日(月) 晴

夜中にいつとき雷雨。そのおかげか、陽ざしも青空もすっきりと映える。気温は少し低め、でも陽ざしはつよいはず、暖くなる。4月後半。

－ 超人の観察 －

今年はAI実用元年になりそうで、テレビのバラエティー番組でも生成AI、チャットAIが取りあげられていた。便利すぎるものは功罪が大きい。使用中断を決める国や企業もあるけど、もう流れはとまらない。

先月神戸のギャラリー—島田であった『こころを観る 時代を観る —中井久夫さんを偲んで』。緻密な手書きの地図なども手にとるように見ることができて、超人ぶりを再認識する展示だった。

このなかで3冊ほど本を販売していた。うち一冊はこのギャラリーのオーナーとの対談が入っているということで、せっかくだからその一冊を

本三部構成になっていて、第一部は「戦争と平和 ある観察」、二部は震災にかかること、三部は生きることについて。

まだ第一部を読みはじめたばかりだけど、5ページぐらいの段階で、こんな風に思った。これは、誰でも今読んでおいた方がいいのではないかと、特に若い人は…。

一部のタイトルにもなっている「観察」は60ページほど。このわずかなページの中に、わたしたち自身が知っておくべき核心が書いてある、そう思う。人間について、人間社会について。

左右、上下の垣根のない超人のグローバルな思考が、深い闇の森に分け入り、ものごとの本質を静かに鋭く語りきる。これからの社会、世界を読むのに、たぶん助けになるはず。自分で読み終えたら、音声にしよう

2023年4月19日(水) 雨→曇

事務所に着いて、音声を録音し始めた時に雨が降りだした。稲光がして雷がなった。そのまま激しい雨になるのかと思ったら、すぐにおさまった。午後からは曇りのよう。

— 『孫子』読了 —

昨日で「孫子」を読み終えた。1996年の手帳に計篇をメモしているし、その後も二度メモしていて、直近は2014年3月。それから10年ほど経って、ようやく読んだことになる。

『真説 孫子』の著者が書いていたように、『老子』をまずは読んだから、『孫子』を読んでも差し支えないと思えた。『真説 孫子』を読んだのが2018年6月だから、4,5年してここに至った。

たぶんこういう流れで読むことになったのは良かった。年齢もまだ若い1996年に孫子だけを読んでいたら、方法論に目を奪われたかもしれない。底流になる精神性を今のようには感じられたかどうか…。

古典も古典の2冊を読んで、個人的に究極の収穫は、人間は変わっていない、ということ。それを確認させてもらった感。使う道具も環境も時代とともに変わり、それに応じてよくもわるくもなるのが人間、ということ

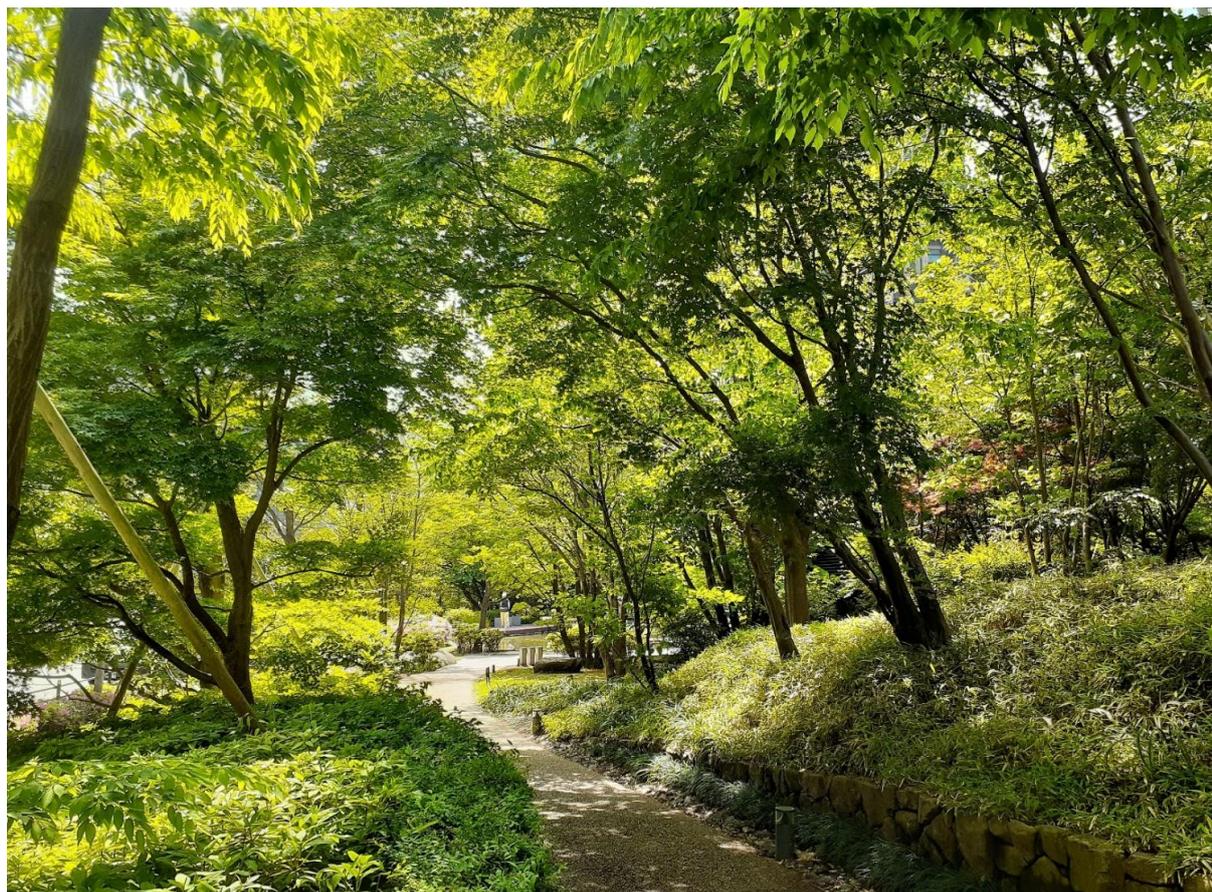
人間そのものをどうとらえるかは大局観などにも関わるので、2500年も前の偉人の答えが今に通じるというのは新鮮な驚きだった。これだけでも十分という気になる。

ともあれ、読むことになってよかった。目にみえて何か成果が現れるということはないけど、孫子全文で一番印象に残っている箇所、まさにそ

「微なるかな微なるかな、無形に至る。神なるかな神なるかな、無声に至る」

2023年4月20日(木)

中津へ行った帰り久しぶりにグランフロント北館の庭園をとおり
気温は25℃まであがり、初夏の陽ざしと新緑、季節が先走り



2023年4月21日(金) 晴れ

四月も下旬、季節の変わり目の気温の上下が激しい。去年もそうだったような。かつての「異常気象」は常態気象となり、今年の梅雨から台風時季までの天気は、さてどうか。

－ 協働のモデル －

毎朝事務所へ出るまでは音の出るものをつけず、事務所に着いてからはずっと音楽を流している。だいたいNHKRMの番組で「らじるらじる」で聴く。「クラシックカフェ」はBGMにちょうどいい。

ゴンチチの「世界の快適音楽」は昨年暮れのクリスマス特別プログラムの時から聴き逃がして毎週何度もかける。BGMにもなるし、熟年男子2人の会話がなんともユーモラスで味があり、あったかい。

長い付き合いでも、おたがいに「さん」づけて呼び合い、丁寧語で話す。狎れあいにならずに一定の節度を保ち、尊重し合いながら協働する。そんな関係性が想像できるから、好感をもつのだと思う。

自分の本当に好きなことで仕事をする。その好きなことが共通していれば、一緒にやると仕事の幅も広げやすい。そこで一緒にビジネスを始める人も少なくない。でも、長続きしないのが常。だいたい3年手前

個人的にちょっと感じるのは、その続けるコツがゴンチチにあるのではないか。たぶん内々ではいろいろあると思うけど、大人な振る舞いで事をおさめて、何のためにやっているかに立ち返る。

そういうことをうまくくり返してきて、一緒にやっていくコツ、ツボを洗練、あるいは一緒に自然と状態になる。何かあってもなくても、やり続ける境地。関係性も熟練の域。

今あらためて結成時期を調べてみると、1978年結成、1983年メジャーデビューとか。ということは40年超え。LYK自業40年説を好例か。

2023年4月24日(月) 曇り

昨日おとといと晴天がつづいた。今日は朝から曇り空。気がつけば大型連休目前。今年は人の動きがすごそう。静かにしていようっと。

－ 3冊目の本 －

素人が長い文章を音読するのはやはりむずかしい。今日で3回目、2回目から〈先に読んで、後で話す〉にしたけど、それでいいのかまだ決めかねる。それでもなとか工夫しながら最後まで読むつもり

本を読んで、時々これは他の人も読むといいんじゃないかと思うものがある。これまでのところ2冊あって、仕事上でも時々相手に勧めている。

その一冊は『私に日本語雑記』(岩波書店)。今回読んでいる「中井久夫」の本。“日本語雑記”の範疇をゆうに超えて、多様な知恵と観察がそこかしこに、ちりばめられている。

独立して仕事をする人のどのような専門職にも、何かしら独創性のヒントをもらえるんじゃないかと思った。例えば、「イメージレス」についての話があった。図形を頭に描けない人が10%いるとのこと。

立方体を思い浮かべる調査で、①ふつうの透視図を描く人80%、②そこに影や色を加える人10%、③全く図形が思い浮かばず数字で面や積を考える人10%。

もう一冊は『大衆の強奪—全体主義政治宣伝の心理学』(創元社)。途中は流し読みしたけど、他人の言動やふるまい、真偽不明の情報に翻弄されるのはなぜか、その一端がわかる。

特に印象にのこったのは、プロパガンダのその催眠効果に抗することが可能な人は10~15%で、9割近くの方は影響を受けやすいというデータ。「凡庸の悪」という言葉を思い出す。

この2冊に今回の『戦争と平和 ある観察』。これは自他とも人間性、社会性、時代性などをみつめる一つの教養として読んでおいた方がいいんじゃないかと思った。

だから、音読。8月8日までには読み終えよう。

2023年4月26日(水) 雨→曇

しっかり雨がふっている。樹々には恵みの雨、新緑が瑞々しい。ツツジはもう満開、週末から大型連休。今年も三分の一がおわる。

— 一つ知って —

赫怒(かくど)、浅薄(せんぱく)、捨象(しゃそう)、酸鼻(さんび)、啓開(けいかい)、反実仮想(はんじつかそう)、ポトラッチ…。こんな言葉があるのかと感心しながら、意味を調べて短冊にした半紙に書きとめ

「中井久夫」の著作には普段つかわない言葉がよく出てくる。20日から読んでいる本もそう。まだ途中だから、これからまだまだ出てくるはず。最終的にいくつになるか。

赫怒って、たぶん見たことなかった。ためしに赫を『常用字解』(白川静)で調べてみると、この字はなく、嚇があった。威嚇の嚇。

その説明に、「カク・カ おどす・しかる。形声。音符は赫。赫は赤を二つならべた形で、〈あかい、さかん、激しく怒る〉の意味がある。激しく怒ることを赫怒といい、激しく怒ったときに発する声を嚇という」。

なるほど…。こうなると赤が気になる。「セキ・シャク あか。会意。大と火とを組み合わせた形。大は手足を広げて立つ人を正面から見た形。これに火を加える形が赤で、穢れを祓い清める儀礼をいう」。

そういえば『私の日本語雑記』に色について書いてあった。そうだったのかと感心して、筆写した。それを見ると、特に赤は「人間しか認知しない色」だそう。

「赤は近くに見える。親しみ、近寄らせる色であると同時に危険を示唆する色…(略)。赤ほど+-の意味をもつ色はない」。

知らないことを一つ調べて知って、深遠なる知の世界も思い知る。

2023年4月28日(金) 晴れ

昨日も今日も朝からよく晴れている。昨日昼に大阪城公園まで足をのばして、この時季ならではの草のにおいにひたった。束の間だったけど、それでも十分、英気を養う。

— 憂鬱でなければ —

もう十数年も前、新聞の書籍広告のコピーに「憂鬱でなければ仕事じゃない」というのがあった。本自体に興味はわかかなかったけど、このコピーは目をひいた。いわれてみれば、確かに…と思った。

「憂鬱になる仕事ほど大事な仕事と言いますよ」。先日、数カ月後に新規の仕事をはかえているという人におしえた。仕事内容には十分キャリアはあるけど、何かしら手放して喜べない気分というので。

仕事で、憂鬱になる、尻込みする、というのはだいたい、今の自分を越えないといけない局面のことが多い。ステージをちょっと上げる、でもどうすれば上がるのか、それが見えない、わからない。

ここで、“ま、いいか”となってしまうと、次のチャンスは遠のく。飛躍は先延ばしになる。先の人はずうならず、模索し、他にヒントを求め動いているから、今回のチャンスが次につながるはず。

「とにかく、今回の機会を丁寧にあつかっていきましょう。考えて、必要と感じたものを勉強して、準備に時間をかけていきましょう」と励ました。なにごと事前の準備、段取りが本番の出来を決める。

仕事と同じぐらい何とかよい状態を保つ必要があるのが、家族・家系の問題。自分の家庭はなくても、家系はずっとついてまわる。憂鬱になる対処も少なくない。でもそれほど大事な対処。

仕事で憂鬱になっても、だからこそ成長できると考え、家のことでなら、だからこそ家族の和・系が保つと考えれば、頭も体もしっかり動いて、よい流れをつくるもの。なにより心の安定につながる。

2023年4月28日(金)帰りは天満橋まで歩き、大川沿いの遊歩道からのぞむ東の空

